

農林漁業現地情報（一般情報）

大豆の事例

5 環境問題への積極的な対応

おからによる循環生産システムを開始 〔長野・池田町〕
- 豚用飼料として循環システムを開始 -

北安曇郡池田町で豆腐類の生産・販売をしているA食品（株）（中野高雄社長）では、平成15年1月から生産過程で出るおからによる「循環生産システム」の運営を開始した。

これは、おからを食品循環資源として豚の飼料に再生利用し、その豚のふん尿をたい肥化して、そのたい肥を大豆栽培に利用するもので、同システムの構築には、「JA大北と同」JA管内の大豆生産組合及び全農系の飼料工場が協力している。

おからは水分が多く、夏場などは半日で腐敗が始まるなど利用には制約が多かったが、脱水、乾燥することにより保存も利くようになり、食品循環資源となった。また、A食品から乾燥おからを飼料工場に搬入したトラックは、飼料工場では製品化された飼料を積み、肥育センターへ行くことができるという流通面の効果もある。

A食品では、「企業としての活動だけでなく、循環型社会の形成に役立てれば」と話している。

連絡先：北安曇郡池田町大字池田2709-3

A食品(株)

(電) 0261-62-0030